

No.465
2022年
9月1日
(木)

つくしんぼ

9月号
(長月)
文責：瀧口

2学期が始まりました。たくさんの荷物(宿題)をもって「つかれた〜!」と言いながら登校してきた子ども達。「おはようございます!」のあいさつに元気よくあいさつを返す子、ニコッと笑って通り過ぎる子、ぺこりと頭を下げる子…。ことばの教室の担当になってからは、「あいさつしたくても、できない子もいるよなあ。」と思うようになりました。そして、「自分が『あいさつを返したくなるあいさつ』ができていたかどうか」と反省もしています。マスクをしたままのあいさつなぶん、目をしっかり開き、さわやかな声でのあいさつを心がけていきたいと思います。



手を使おう!

*** 指の役割 ***

- つまむ
- 動かす
- 操作する
- 握る
- 支える
- 固定する

← 人差し指と中指につられて、小指と薬指が握れていない。

もうすこし!

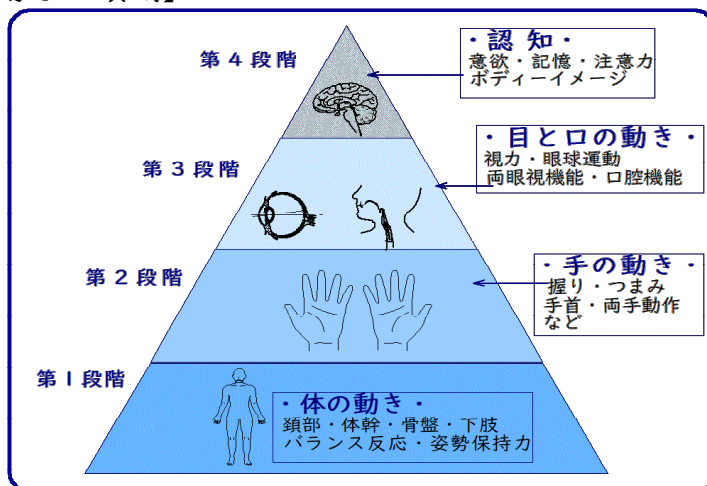
握った小指と薬指につられて、人差し指と中指が伸びきらない。

→

「ことば」の指導で「パズル」や「アイロンビーズ」「シールはり」などをすることがあります。「□や舌の練習をするところなのになぜ?」と思われるかもしれませんが、いくつか理由があります。

- ①発達は大いところから小さいところに進んでいくため。**
からだは、大きい筋肉から小さい筋肉の順に発達していきます。ざっくりと、体幹→足→手→指→□周りの順なので、手先がうまく使えるようになると、□びるや舌をうまく動かせるようになります。
- ②目と手の連携がうまくできるようながすため。**
見ている場所に手を持ってくることができると、思い通りに手を動かして多様な動きができるようになっていきます。
- ③集中して座る練習になる。**
姿勢が維持できることは、体幹がしっかりしているということです。集中するという力は、話している相手からの発信をうまく受け取るために必要な力です。
- ④達成感が得られやすい。**
パズルなどは、ゴール(完成形)が分かっているので、見通しが立ちやすく、できた喜びを感じやすい教材です。
- ⑤相手に合わせたことばがかけやすい。**
色や形、位置の表し方、大きさ、名詞など、その子にあわせてことばをかけることができます。「つまむ」という動作ができるようになると、発語が見られるというように手の動きの発達とことばの発達は密接につながっています。また、発達の促進だけでなく老化の防止にもよいので、私も意識して動かすようにしています。

【動きの領域】



ものを上手に使うためには、①指先の動かし方を頭で考え(第4段階)②手元をよく見て(第3段階)③姿勢を保ち続けながら(第1段階)④左右の手を操作する(第2段階)ことが必要。第1段階の姿勢の保持ができることは、動きの土台となります。安定しているから、手や目や口が使えるのです。どこに課題が残っているか読み取り、具体的な支援を考えていきます。

【参考】発達教育2022.2月号「手を使おう〜その意味と発達を促す支援」
神奈川県立保健福祉大学 笹田 哲

とんぼのはねは
まど・みちお

とんぼのはねは
みずの いう

とんぼのはねは
うまれたからかしら

とんぼのはねは
そのう

とんぼのはねは
とびたいからかしら